

# 日立的SOAプラットフォーム「Cosminexus」でSOAに基づき営業情報システムを開発。営業情報の可視化と効率的活用を実現

日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社(以下、日立ソフト)は、社内の営業情報システムをSOAに基づき開発し、2008年11月から利用を開始した。SOA基盤として採用したのは、日立のSOAプラットフォーム「Cosminexus」のプロセス統合基盤「uCosminexus Service Platform」だ。営業支援システムとして活用しているパブリッククラウド(社外Webサービス)や複数の既存システムを、SOA基盤上でサービス連携させることにより、営業プロセスにまたがる情報の可視化と効率的活用を実現した。今後、日立ソフトでは、今回獲得したノウハウをもとに、コンサルテーションや製品化することを計画しており、SOA関連ビジネスをさらに強化していく。



日立ソフトウェア  
エンジニアリング株式会社  
技術開発本部  
情報システムセンター  
経営情報システム第1グループ  
グループマネージャ  
渡邊 修二氏



日立ソフトウェア  
エンジニアリング株式会社  
通信・産業システム事業部  
第2通信・産業システム本部  
第1システム部  
GrM・シニアコンサルタント  
坂口 直樹氏



日立ソフトウェア  
エンジニアリング株式会社  
通信・産業システム事業部  
第2通信・産業システム本部  
第1システム部  
ユニットリーダー・  
プロジェクトマネージャ  
北林 拓文氏

## 情報の可視化と効率的活用を目指しSOAに基づき営業情報システムを開発

情報システムは、保守・運用しながら使っていくものであり、開發生産性だけでなく保守性がきわめて重要である。

「ひと昔前であれば、情報システム部門はシステム単体の保守性を考えていればよかった。しかし現在では、『情報の可視化』が高度に求められています。複数システムの統合的な保守性を実現していかなければなりません」と渡邊氏は語る。

そこで注目されるのがSOAだ。

社内の各システムは、開発言語もプラットフォームもアーキテクチャも異なっている。従来の開発手法で、これらをつないで横断的に情報を取り出そうとすると、膨大な数のインタフェースを開発しなければならない。

「SOAなら、複数システムを柔軟につないで、業務視点での横断的な情報活用を支援できるはずだ」と(渡邊氏)。

一方、通信・産業システム事業部では、企業の合併やシステム再編成が頻繁に起きている業界に向けて、SOAの導入を勧める提案を続けていた。

「社内システムでSOA開発を経験してノウハウを身につければ、お客さまへのより具体的な提案ができると思いました」と北林氏は語る。

そして、SOAの適用に最適だと判断された社内システムが、営業情報システムである。

「既存のシステムは、営業支援システムとして活用しているパブリッククラウドや複数の社内システムを組み合わせることで開発してきましたが、受注より前の引き合い段階のプロセスで、顧客情報を一貫して見られないという不満の声があがっていました」と坂口氏は言う。

「営業プロセスごとに必要なシステムが複数存在しており、この連携をプロセスごとに開発するのは大変です。しかも、受注前のプロセスは変更頻度も高い。常に変化しているプロセスに対応するには、SOAの疎結合が望ましいのです」と(渡邊氏)。

こうした思いが合致して、営業情報システムのSOAに基づく開発プロジェクトが始まった。

## SOA基盤としてESBの役割を担う「uCosminexus Service Platform」

SOA基盤として採用したのは、日立のSOAプラットフォーム「Cosminexus」のプロセス統合基盤「uCosminexus Service Platform」だ。

uCosminexus Service Platformは、ビジネスプロセス管理を行うと同時に、ビジネスプロセスとサービスを連携させるESBの役割を果たす。営業支援システムにはパブリッククラウドの1つとして「Salesforce」を活用しているが、

USER PROFILE

日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社

http://hitachisoft.jp/

本社 東京都品川区東品川4-12-7

設立 1970年9月21日

資本金 341億円

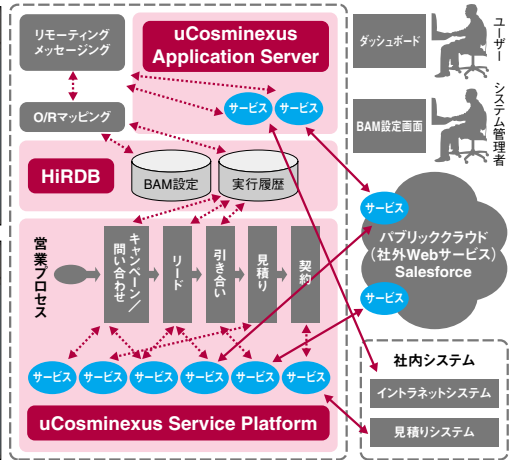
従業員数 5,283名

システム開発、サービス、プロダクト&パッケージの3つを主な事業領域とする総合システムインテグレータ。官公庁・金融・保険・証券業向け大規模業務システム、メインフレームの基本ソフト、オープンシステムのミドルウェア製品など、幅広く開発。



上から管理者画面、案件情報一覧画面、多次元統計表画面、統計グラフ画面。

日立ソフトウェアエンジニアリング(株)の  
営業情報システム概要



このサービス連携はuCosminexus Service Platformで行っている。

また、業務プロセスに沿って、複数システムをサービス連携させ、その実行結果をダッシュボードに表示させるといったことも可能にしており、ダッシュボードのアプリケーションはCosminexusのアプリケーションサーバ「uCosminexus Application Server」上で稼働している。

uCosminexus Service Platformを採用したのは、国内で開発された製品であり、迅速で手厚いサポートが提供されるからである。実際に日立ソフトは、日立の開発担当者と意見交換しながら、確実な開発を進めていった。

直感的なGUIで

ビジネスプロセスを容易に定義

SOA基盤を用いた新営業情報システムは、2008年11月から利用を開始。ESBへの接続方法はさまざま。

Salesforceは、SOAPインタフェースで接続し、Java™アプリケーションは、Java™部品をサービス化して接続。Microsoft® .NET®アプリケーションは、uCosminexus Service Platformのアダプタ機能を使って、データベースから直接データを取り込む構造にした。

「uCosminexus Service Platformは、直感的なGUIでビジネスプロセスのフローを容易

に定義できます。業務アプリケーションの各機能をマウスでマッピングし、ビジネスプロセスのフローを定義するだけで、プログラミングがほとんど発生しませんでした」(坂口氏)。

今回の開発手法は、ウォーターフォール型ではなく、ユーザー・レビューを繰り返して完成度を高めていくという「反復型」を採用した。

「反復型の開発は、ユーザー部門を巻き込んだ開発を進める手段として、非常に良い組み合わせです。SOAは形がないサービスというものを扱うので、レビューが必要です。またSOAでは、最初に対象領域が定義されているため、ユーザーの要求がどこまでも広がっていく懸念がありません」(坂口氏)。

ノウハウを活かして

SOA関連ビジネスを強化

新営業情報システムでは、複数システムに存在する営業情報を、営業プロセスに沿って自在に抽出できるようになった。業務プロセスの全体を俯瞰して、製品ごとの問い合わせ件数や商談状況、各セミナーやキャンペーン毎の契約成立率なども、リアルタイムに把握できるのである。

今回開発したシステムは、契約までの営業プロセスが対象だったが、今後は入金プロセスまで範囲を拡大し、SAP® R/3®やプロジェクト統合管理システムなども統合していく計画だ。

実現すれば、開発の進捗度や入出金の状況もリアルタイムに参照できるようになり、営業支援の効果はさらに高まる。

SOAによるシステム開発で実感した成果のひとつとして、不馴れな技術者でも業務プロセスが理解しやすく、年月が経ってもブラックボックス化しないシステムを作れたことが大きいという。つまり、将来の変化にも迅速に対応していけるのである。さらに、社外のパブリッククラウドをESBへ接続するノウハウを獲得したことも大きな成果である。今後は、社内外のシステムを、物理的な場所を意識することなく、柔軟に組み合わせて対応していけるのだ。

「SOAでの開発というと、欧米ではシステムの全自動化が目的となっていることが多いのですが、日本ではヒューマンワークが残る前提で業務・システムの効率化を考える必要があります。日本のビジネススタイルの良いところは残り、効率化できる場所はSOAを活用する、このバランスが重要だと考えています」(北林氏)。

今後、日立ソフトでは、今回獲得したノウハウを活かして、SOA関連ビジネスを強化していく。

「SOAシステム化コンサルテーション」や今回の成果を反映した「SOA開発ガイドライン」、「反復型開発ガイドライン」などの提供を通じて、変化への迅速な対応ができるSOAのメリットを、多くの企業へ提供していきたいと考えているのだ。



SOA:Service Oriented Architecture ESB:Enterprise Service Bus SOAP:Simple Object Access Protocol  
GUI:Graphical User Interface BAM:Business Activity Monitoring

- Salesforce は、米国その他の国における株式会社セールスフォース・ドットCOMの登録商標です。
- Javaは、米国およびその他の国における米国Sun Microsystems, Inc.の商標または登録商標です。
- Microsoft .NETは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- SAPおよびR/3は、SAP AGのドイツおよびその他の国における商標または登録商標です。
- その他記載されている会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

SOAプラットフォーム

Cosminexus

コスミンエクサス

www.cosminexus.com

お問い合わせ

記事に関しては、株式会社日立製作所 ソフトウェア事業部 販売推進部 TEL.03-5471-2592

製品に関しては、HMCC(日立オープンミドルウェア問い合わせセンター) ☎0120-55-0504 (土、日、祝日を除く9:00~12:00 13:00~17:00)